

## 3 年 団

学年主任： 山地 君代

### (1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
  - ・ 自主、自律的な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
  - ・ 進路を明確にし、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 豊かな人間性を涵養する。
  - ・ 社会生活における役割や自己責任を自覚し、深く豊かな人間性を育成する。

### (2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的な生活が送れるよう支援する。
  - ・ 言葉遣いや服装・態度、時間や約束の厳守など基本的な生活態度が、大人としての行動（社会に出てのマナー）であるか、自分さえ良ければよいという言葉をとっていないか、機会あるごとに反省を促し、常に責任ある言動がとれるように指導する。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
  - ・ 総体後の進路HRなどを充実させ、部活動引退後の気持ちの切り替えと受験態勢の構築が速やかに行えるよう面談等を通じて指導する。
  - ・ 塾頼りの受け身の学習ではなく、主体的な学習、特に家庭学習を充実させるよう指導する。
  - ・ 「進路説明会」や懇談会を充実させることにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
  - ・ 「進路だより」を効果的に発行する。また、受験情報誌やインターネットなどを利用して、進路に関する情報を充実させる。
  - ・ 保護者を含む三者懇談や担任との面接などを通して、進路を明確にさせる。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
  - ・ 「受験」という波に飲み込まれることなく、社会の動きを知り、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
  - ・ 運動会や津島杯（校内球技大会）などの学校行事に積極的に参加させることによって、好ましい人間関係を築かせ、協力・強調の精神を養う。
  - ・ 高大連携や国際理解講演などを通してさまざまな刺激を与え、社会に目を向けた活動が出来るようにする。

### (3) 成 果

- ① 3年生であることを自覚し、自律的な生活が送れるよう支援する。
  - ・ 服装の乱れを見つけた時にはその都度声をかけ、常日頃から身だしなみに気をつけるよう指導した。また、早朝登校の指導も、遅刻の翌日から3日連続で行うようその意義を再確認して行わせた。
  - ・ 全体的に真面目な生徒が多く、服装や遅刻の指導を日頃から丁寧に行うことでほとんどの生徒が規範意識を持って学校生活を送ることができた。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
  - ・ 5月の進路説明会には8割近い保護者に参加していただき、最新の大学受験の情報を提供することができた。
  - ・ 進路説明会や進路HRを通して、進路の情報を収集し、主体的に各自の進路について考え志望校を決めることができた。「進路だより」（年3回発行）や「学年団だより」（年2回発行）

も受験勉強への取り組みや心構え等について情報を提供することができ、効果的だった。

- ・総体後のHRでは学年集会を開き、進路指導部や各教科の先生から受験の流れや留意点、受験勉強をすすめていく上での各教科のアドバイスなどを話してもらった。大学受験に向けて気持ちを切り替え、モチベーションを高めるものとなった。
- ・受験に関する冊子やアドバイスの言葉をHR教室に展示するなど、日頃から生徒が受験に対するモチベーションを高めクラス全体で受験に向かう雰囲気ができるように、HR担任が教室内の環境作りに工夫を凝らした。
- ・「受験勉強の基礎は授業にあり家庭学習の時間が学力伸張に大きく左右すること」を日々の授業で実践し、家庭学習の大切さを強調した。生活時間調査の平均学習時間は4月3.7時間 6月4.4時間 9月6.0時間と徐々に増えてきた。
- ・塾の自習室を利用する生徒が多い中、9月より学校でも自習室を設け、通常の下校時刻の後も7時まで残って勉強ができるように環境を整え、生徒の受験勉強を支援した。また、2月の家庭学習中も生徒がそれまで同様の学習スタイルで勉強できるように自習室を設けた。利用者も多く、質問や2次試験の添削指導を受けながら勉強している。
- ・昨年度に引き続き、始業前の時間や放課後の時間にHR教室で学習するように指導した。教室を学習の場とし、クラスや学年全体で受験に向かう雰囲気を作った。9月以降は、教科担当の朝学習のための演習用のプリントを用意してくれ、生徒の受験勉強の助けとなった。始業前から授業中同様に真剣に取り組む生徒の姿が多く見られた。
- ・1年次より一貫して、志望を高く持つよう指導をしてきた。進路HRや学年集会などでは、安易な妥協をせず各自の志望を貫くことの大切さを説き、また本人の意思にあった進路決定ができていない生徒には担任が十分時間をかけて面接をするなど、生徒の進路実現を支援した。判定よりも志望を優先して出願した生徒も多く見られた。
- ・面接週間（4月、9月）だけでなく、校内・校外模試の成績返却時にも面談を行い助言を与えるなど、生徒の状況に応じて面接や個人指導を実施し、受験勉強や進路決定がうまく行えるよう、また生徒の納得のいく進路決定ができるよう支援した。また、受験に即した面接や小論文、添削指導にもHR担任、教科担当をはじめ多くの先生方が時間をかけて熱心に指導にあたり、生徒の進路実現を支援した。
- ・1学期末、2学期末保護者懇談に加え、センター試験後の懇談会を実施し、進路について3者が十分話し合うことができた。特に、センター試験後の懇談会は、国公立大学出願校の最終決定や私立大学出願の最終確認という大事な懇談ということもあり、実施日や時間割等で配慮して頂いて、8割近くの保護者の方の参加があり効果的に実施できた。

③好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。

- ・運動会、津島杯、遠足等の学校行事にも、最上級生としての自覚を持ち、積極的に取り組んだ。クラスの団結が強まり、友好的な人間関係を築くのに役だった。

#### (4) 課題と次年度以降の改善策

- ・受験という大きなプレッシャーに心を痛め、教室の中に入りづらくなった生徒がいる。どの学年でもその傾向はあるが、特に3年生になってその傾向が多く見られ、また、生徒はこれまで以上に受験や成績に対して敏感になってきていると感じた。全体としては、気持ちを高める指導が必要だが、個々の生徒の状態をよく観察し、遅刻や欠席などの小さな変化を見逃さず、その都度保護者との連絡を密にしていくことが必要である。教科担当や部活動顧問との連携も大切である。
- ・2年3学期に「0学期宣言」をし、春休み前には受験を見据えた学習指導も行ったが、受験勉強に取りかかる時期が遅く、夏休みになってやっとという生徒も見られた。総体後ではなく、春休み、遅くとも3年4月から受験生としての勉強に取り組ませる対策が必要である。